Sobal corporation

JPX
東証JASDAQ上場
証券コード 2186

株主通信 2016

2015年3月1日 － 2016年2月29日（第34期）

社是
Company creed

技術で社会に貢献する
We contribute to the society
by providing technical services.

目次
Contents

4. 代表メッセージ
6. 事業概況
8. 第34期の総括
9. 今後の見通し
10. ソーバルの戦略
12. 業績ハイライト
13. 財務諸表
14. 株主優待のご紹介と配当政策
15. 株主情報
16. 会社／株式情報

代表メッセージ
Greetings

企業にとって、最大の資源は人材です。

時下、ますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

企業にとって、最大の資源は人材です。

私どもは、高い意識と技術をもつ人材が、充実した環境で働くことが価値あるテクノロジーを生み出す近道だと考えております。そのチャンスを拡大するため、ソーバルでは仕事とプライベートのバランスを大切にする社風を築いてまいりました。

加えて、企業活動に関わる全ての方の満足が、企業価値の向上に繋がるとも考えております。

長年、人材開発と教育に投資を続け、IT分野の技術革新に絶えず挑戦し続けてまいりました。その結果、高い技術力と経験豊富な人材を合わせ持つ、国内有数の独立系組み込み開発企業と、お客様からも高いご評価をいただいております。

開発分野は、コンシューマ向けの製品開発を中心に、オフィス機器、産業用装置の開発まで多岐に渡ります。対応範囲は組み込み用ソフトウエア開発やLSI、周辺回路設計に留まらず、製品同梱アプリケーション・ドライバ開発やWebポータルサイト・業務系システム開発等、幅広い分野を対象に事業を展開しております。

昨今では、さらに技術の幅を広げ、クラウドサービスやスマートフォンアプリケーション等の新しい分野についても意欲的に取り組んでおります。また主体のエンジニアリング事業をより充実させつつ、ソーバルのさらなる発展に寄与する取り組みに力を入れております。

2015年5月には、車載システム開発、生産ラインや物流搬送設備等の制御システム等に強みを持つアンドールシステムサポート株式会社を子会社化いたしました。

同時に、経営体制の若返りと一層の強化を目指すため、株主様と取締役会の総意を得て、代表取締役会長に就任し、代表取締役副社長であった推津敦が代表取締役副会長兼CEOに、取締役社長には、専務取締役であった稲葉勝巳が就任し、当社グループのさらなる発展に向け、全力で取り組んでまいりました。さらに2016年5月には新任取締役1名を迎え、当社グループの一層の発展に向け、取り組んでまいる所存です。

また、2016年5月1日を効力発生日として、当社グループ経営の効率化・グループ管理体制の迅速化を推進するため、連結子会社である株式会社MCTECを吸収合併いたしました。

1983年創業以来の、「技術で社会に貢献する」というソーバルの理念は、今後も変わらず貫いてまいります。社会との結びつきとして、技術だけではなく様々なボランティア活動など、社会に愛され、貢献できる姿を描き、成長してまいります。ソーバルはすべてのステークホルダーの皆様から、より一層の信頼の獲得と、期待に応えるべく、全社一丸となって邁進してまいります。

今後とも、変わらぬご支援とより一層のご鞭撻を賜ります様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

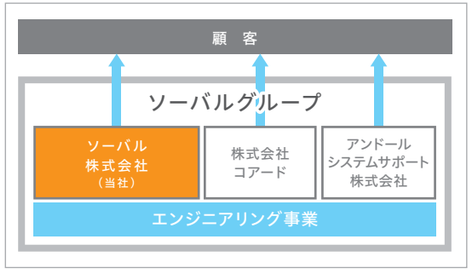
ソーバル株式会社　代表取締役会長

推津順一

ソーバルグループの事業

当社グループ（当社及び当社の関連子会社）は、当社及び子会社2社で構成されており、ファームウエア、ソフトウエア並びにハードウエアの開発及び評価に関するサービスを提供するエンジニアリング事業を主な事業として展開しております。

［事業系統図］ （2016年5月25日現在）



※2016年5月1日付で当社は株式会社MCTECを吸収合併しております。

エンジニアリング事業

主として、デジタル製品メーカーに対し、ファームウエア、ソフトウエア並びにハードウエアの「開発」を支援するサービスを提供しております。

同時に、開発中の試作品の不具合や仕様誤りをプログラムレベルで評価・検証したり、生産前の製品の品質評価をする「評価」サービスも併せて提供しております。

また、デジタル製品メーカー以外にも、精密機器や電子機器メーカーに対して、同様の技術支援サービスの提供を行っております。

ソフトウエアでは、デジタル製品のアプリケーションツールやドライバの開発のみならず、業務系及びWeb系のアプリケーション開発にも携わっております。

ハードウエアでは、ＬＳＩやＤＳＰの設計・開発、周辺回路設計、さらに構造設計や機構設計の研究・試作・量産設計を開発範囲としております。

併せて、組込みソフト開発において培われた技術基盤により、製品開発コスト管理支援ソリューション、組込みシステム設計支援ソリューション、SoC設計支援ソリューション、ソフトウエア製品化支援ソリューション、基板装置試作・量産支援ソリューション等の各種コンサルテーションを提供しております。

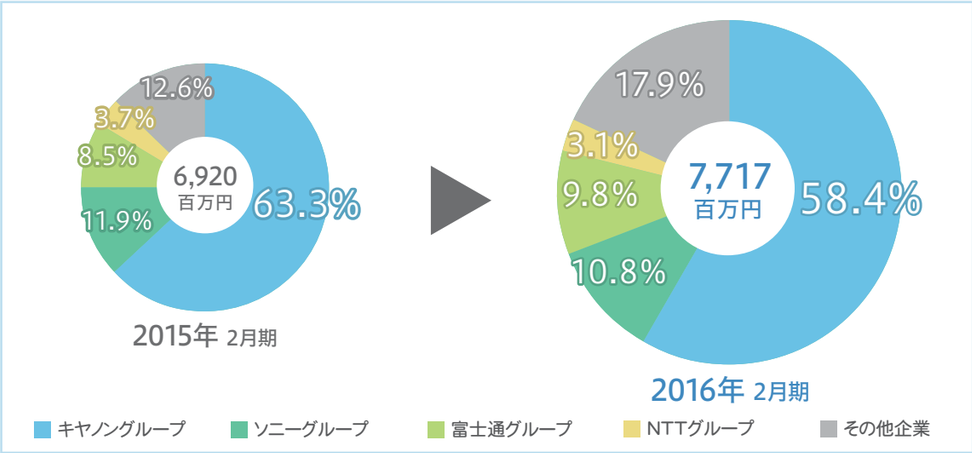
主な取引先

当社グループは高い技術力と経験豊富なエンジニアを合わせ持つ独立系組み込み開発企業として、キヤノングループ、ソニーグループ、富士通グループといった国内有数のメーカーとの取引があり、ソーバルグループの技術力がいかんなく発揮されております。

当連結会計年度における売上高比率は、引き続きキヤノングループが58．4％で最大となっております。キヤノングループ、ソニーグループにおきましては、売上高比率が減少しておりますが、売上高ベースでは増加しております。富士通グループは、業務系システムやファームウエアの開発案件が好調だったため、比率・売上高ともに増加いたしました。また、その他企業との取引の比率が伸長しておりますが、これは、アンドールシステムサポートの統合効果による影響です。

今後も当社グループは、技術やノウハウの蓄積、コンプライアンス体制の強化維持、技術情報や機密情報の漏洩防止対策などに継続的に取り組み、安定した品質と技術を基に取引先からの高い信頼を得られるよう努め、取引のボリュームを維持・拡大しつつ、新規分野の顧客開拓を進めてまいります。

▽連結：取引先別比率（％）・売上高（百万円）



第３４期の総括
Summary of the 34th term

当連結会計年度におけるわが国の経済は、政府・日銀による各種経済政策の効果による雇用・所得環境の改善やインバウンド消費の拡大などを背景に緩やかな回復傾向で推移いたしました。一方、海外におきましては、アメリカ経済は堅調に推移したものの、中国や新興国経済の減速、欧州及び中東地区での地政学的リスク、為替の変動や原油価格の急落など、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経済環境の中、当社グループにおきましては、高い技術力をもとにお客様からのニーズに柔軟に対応し、堅調に受注を拡大するとともに、新たな案件の獲得にグループ一丸となって努めてまいりました。また、グループ間での人材や技術力の共有、効率的なアサインによる生産性の向上などに取り組んでまいりました。さらに、2015年5月1日付でアンドールシステムサポート株式会社を当社グループの一員に加えたことにより、より幅広い案件に対応することが可能になったと同時に、新たな業務分野の拡充にもつながりました。

なお、その他事業におけるRFID事業は2015年3月31日付で事業譲渡いたしました。

利益面に関しましては、売上高の増加とともに、前年度に行った本社移転による作業効率化・各種ノウハウ等の情報共有も引き続き徹底し、増益となりました。

以上により、当社グループの売上高は７，717百万円（前年同期比11．5％増）、営業利益は610百万円（同10．7％増）、経常利益は621百万円（同10．8％増）、当期純利益は391百万円（同17．5％増）となりました。

	2015年2月期（第33期）	2016年2月期（第34期）	前年同期増減比
売上高（百万円）	6,920	7,717	11.5% ↑
営業利益（百万円）	551	610	10.7% ↑
経常利益（百万円）	560	621	10.8% ↑
当期純利益（百万円）	333	391	17.5% ↑
総資産（百万円）	3,557	3,798	6.8% ↑
純資産（百万円）	2,518	2,755	9.4% ↑
一株当たり当期純利益（円）	77.30	93.21	20.6% ↑
一株当たり純資産（円）	599.57	655.52	9.3% ↑
一株当たり配当金（円）	31.00	39.00	25.8% ↑

今後の見通し
Future Prospects

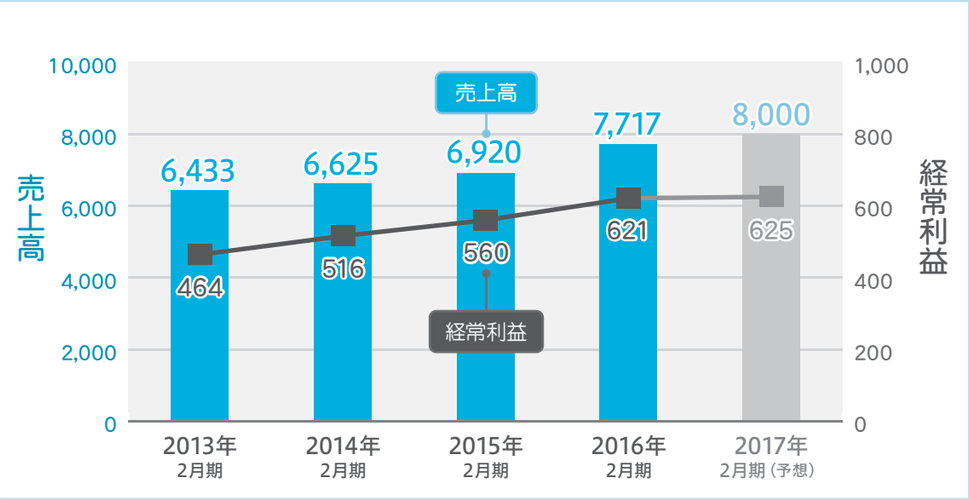
第35期の展望

今後のＩＴ業界は、各種開発案件の需要において引き続き順調に推移していくものと思われます。このような環境の中で、当社グループでは、既存の事業はもとより、自動車・航空宇宙・医療関連など、新たな業務分野への進出のための営業活動をより一層強化し、さらなる受注拡大を目指してまいります。そのためには優秀な人材の確保・育成が重要となります。採用活動はもちろんのこと、特にプロジェクトマネージャーやプロジェクトリーダーの育成や教育に関する先行投資も必要不可欠と考えており、各種施策を積極的に実施してまいります。

また、2016年5月1日付で連結子会社である株式会社ＭＣＴＥＣを吸収合併し、より強固な体制を築いてまいります。

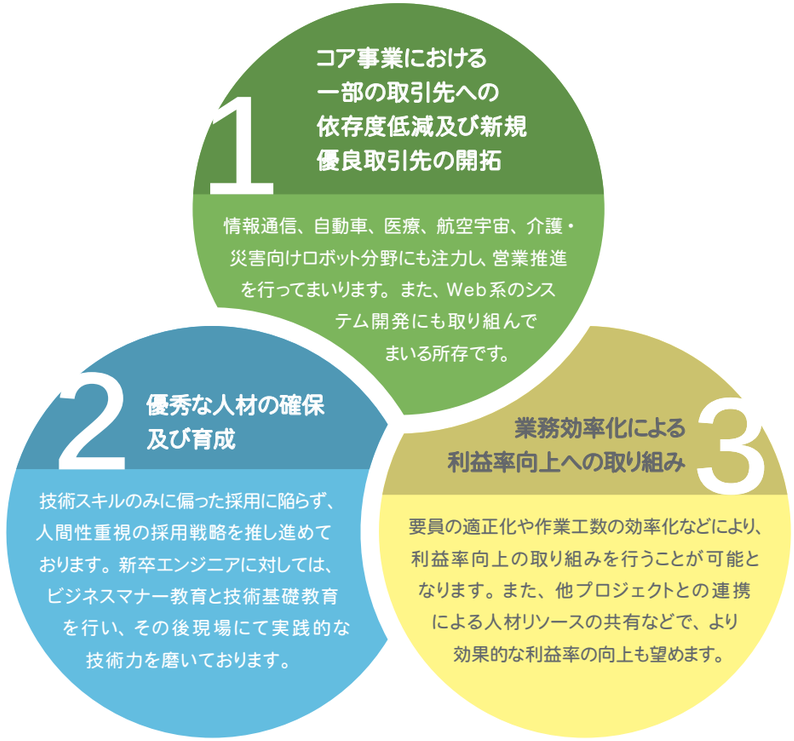
以上により、2017年2月期の通期の業績予想は、売上高８，000百万円、営業利益６２０百万円、経常利益６２５百万円、当期純利益４０５百万円を見込んでおります。

▽売上高、経常利益の推移予想（連結）（百万円）



中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

当社グループは、主としてファームウエア、ソフトウエア並びにハードウエアの開発とその製品の評価に関するサービスを提供しております。当社グループの主要取引先が属する業界においては、顧客企業におけるエンジニアに対するニーズと競合他社との差別化の観点から、支援する技術品質の安定的な向上とともに、以下の３点を重要課題として取り組んでまいります。



第35期の重点戦略

比較的順調な「採用活動」を引き続き積極的に取り組みつつ、「販路拡大」と「多角的な収益構造の構築」に課題の重点をおいております。

人材獲得・育成戦略

採用活動については、新卒採用を主軸とした質を落とさない人材の採用を行っております。インターンシップを中心とした学生への広報活動の強化、魅力的な説明会の実施や、選考方法の見直しにより、質の高い優秀な人材の確保に努めてまいります。

新卒採用の強化・エンジニア育成

インターンシップ開催

ワークライフバランスの充実

質の高い優秀な人材の確保・育成

販路拡大・収益多角化戦略

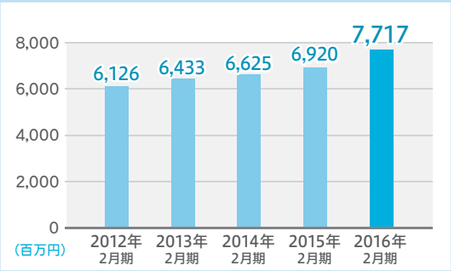
新規分野の顧客開拓につきましては、2016年3月には日立グループとの取引が開始されるなど、概ね順調です。同時に、需要が旺盛なこのタイミングこそ、拡大に向けた絶好のチャンスと考えており、これまで以上に積極的に展開する方針です。

新規開拓・業務提携・M＆A

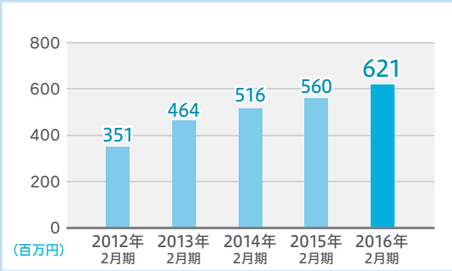
業務分野のすそ野を拡大

業績ハイライト
Financial Highlights

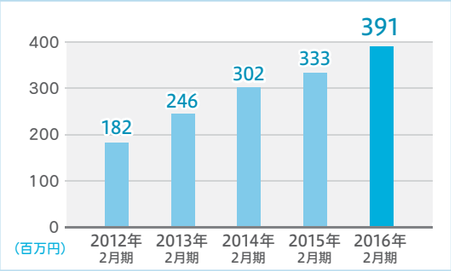
売上高 （連結）



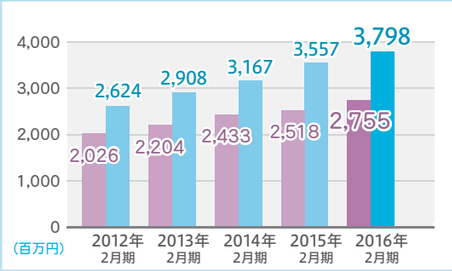
経常利益 （連結）



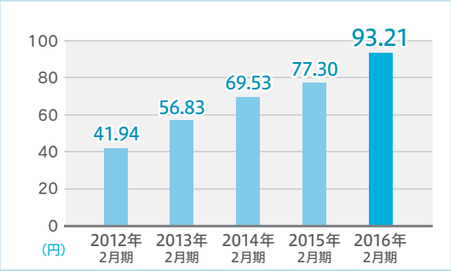
当期純利益 （連結）



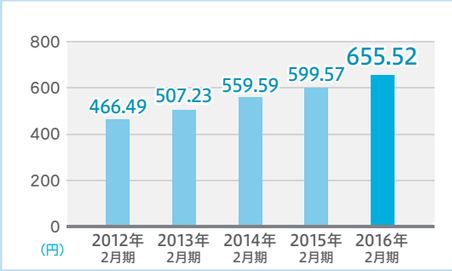
純資産／総資産 （連結）



一株当たり当期純利益 （連結）



一株当たり純資産 （連結）



財務諸表
Financial Statements

損益計算書 （連結）

（単位：百万円）

科目	2015年 2月期	2016年 2月期
売上高	6,920	7,717
売上原価	5,475	6,102
売上総利益	1,444	1,614
販売費及び一般管理費	892	1,003
営業利益	551	610
営業外収益	11	14
営業外費用	2	3
経常利益	560	621
特別利益	–	0
特別損失	41	–
税金等調整前当期純利益	518	621
法人税、住民税及び事業税	213	214
法人税等調整額	△ 27	15
法人税等合計	185	229
少数株主損益調整前当期純利益	333	391
当期純利益	333	391

貸借対照表 （連結）

（単位：百万円）

科目	2015年 2月期	2016年 2月期
（資産の部）		
流動資産	2,984	2,933
固定資産	572	865
資産合計	3,557	3,798
（負債の部）		
流動負債	860	848
固定負債	178	194
負債合計	1,038	1,043
（純資産の部）		
株主資本	2,518	2,755
純資産合計	2,518	2,755
負債純資産合計	3,557	3,798

キャッシュ･フロー計算書 （連結）

（単位：百万円）

科目	2015年 2月期	2016年 2月期
営業活動によるキャッシュ･フロー	700	145
投資活動によるキャッシュ･フロー	△ 246	152
財務活動によるキャッシュ･フロー	△ 248	△ 577
現金及び現金同等物の増減額	206	△ 279
現金及び現金同等物の期首残高	1,477	1,683
現金及び現金同等物の期末残高	1,683	1,403

2016年2月期の株主優待の内容

8月末現在で1単元(100株)以上の株式を保有する株主様に対し、株主優待制度としてQUOカードを優待ギフトとして贈呈いたしました。

優待内容	1単元(100株)以上 5単元(500株)未満 の 株式を保有する株主様に対し、 500円相当のQUOカードを贈呈
	5単元(500株)以上 の 株式を保有する株主様に対し、 2,000円相当のQUOカードを贈呈
実施回数	年1回
発送方法	中間決算関係書類の中に同梱

剰余金の配当について

当社は、株主の皆様への利益還元を経営課題の一つとして考え、企業価値の増大に努めてまいりました。

株主の皆様への最大の利益還元は、業容拡大と企業価値の長期的最大化であると考えており、株主配当による利益還元について、当社において将来可能性がある企業買収や設備投資、研究開発等のための内部留保の充実を図りながら、安定的かつ継続的に増加させていきたいと考えております。

配当金推移

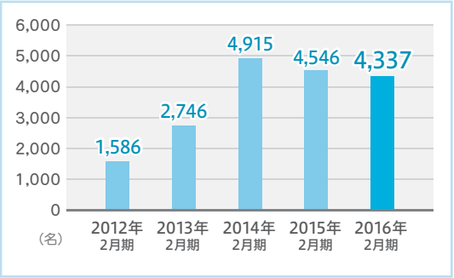
(単位:円)	一株当たり配当金			配当性向
	第2四半期末	期末	年間	
2017年 2月期(予想)	21.00	21.00	42.00	43.6%
2016年 2月期	19.00	20.00	39.00	41.8%
2015年 2月期	13.00	18.00	31.00	40.1%
2014年 2月期	8.00	13.00	21.00	30.2%
2013年 2月期	8.00	9.00	17.00	29.9%

株式基本情報

(2016年2月29日現在)

証券コード	2186
上場市場	株式会社東京証券取引所 ジャスダック市場
事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで
期末配当支払株主確定日	2月末日
中間配当支払株主確定日	8月31日
株主総会	毎年5月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内1-4-5 三菱UFJ信託銀行株式会社　証券代行部
単元株式数	100株
発行可能株式総数	14,800,000株
発行済株式総数	4,203,600株
株主数	4,337名
公告方法	電子公告 (事故その他やむを得ない事由が生じ、電子公告を行うことができない場合には、日本経済新聞に掲載します)

株主数推移



株式分布状況

(2016年2月29日現在)

◇ 所有者別情報

政府及び地方公共団体	0.00%
金融機関	0.23%
金融商品取引業者	1.24%
その他の法人	41.71%
外国法人等個人以外	0.48%
外国法人等個人	0.00%
個人・その他	56.34%
自己名義株式	0.00%

◇ 所有株式数別情報

10単元未満	92.66%
50単元未満	6.57%
100単元未満	0.41%
500単元未満	0.25%
1,000単元未満	0.00%
1,000単元以上	0.11%

大株主

(2016年2月29日現在)

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
エバーコア株式会社	1,740,000	41.39
ソーバル従業員持株会	570,400	13.56
川下 奈々	188,720	4.48
推津 敦	188,720	4.48
和田 昌彦	30,000	0.71
株式会社SBI証券	28,400	0.67
町田 泰則	20,500	0.48
推津 順一	20,040	0.47
推津 幸子	20,020	0.47
蔵方 肇	20,000	0.47

会社/株式情報
Company and Stock information

会社概要

（2016年4月1日現在）

社名	ソーバル株式会社
設立	1983年1月
本社所在地	〒141-0001 東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル
資本金	213百万円
事業内容	エンジニアリング事業 ・ソフトウエア・ハードウエアの設計開発 ・第三者検証 ・マニュアル制作
従業員数	連結：1,052名　単体：905名
ホームページアドレス	http://www.sobal.co.jp/

株式手続き

住所・氏名・振込口座などの変更について

ご住所の変更や配当金の受取り方法等、株式に関する手続きのお問合せ先は下記をご参照ください。

一般口座をご利用の株主様	お取引先の証券会社 お取引先の証券会社までお問合せください。
特別口座をご利用の株主様	三菱UFJ信託銀行株式会社（証券代行部） 〒137-8081 東京都江東区東砂7-10-11 三菱UFJ信託銀行株式会社証券代行部 電話番号：0120-232-711 受付時間：9:00～17:00（土日祝休み） URL：http://www.tr.mufg.jp/daikou/

役員紹介

（2016年5月25日現在）

取締役	
代表取締役会長	推津 順一
代表取締役副会長兼CEO	推津 敦
取締役社長	稲葉 勝巳
専務取締役	舊橋 学
専務取締役	河原 浩一

監査役	
常勤監査役	伊藤 光男
監査役（公認会計士）	森 正人
監査役（弁護士）	小野寺 眞美

執行役員
東谷 正雄
山林 敬
島谷 裕一
杉山 義雄
大久保 仁美
井上 一幸
猪狩 安広
西岡 建太
古屋 繁之
岩崎 恭治
新居見 憲治
宮澤 克行
両瀬 賢一
植田 年青

株式に関するお問合せ先

ソーバル株式会社
IR担当窓口
〒141-0001　東京都品川区北品川5-9-11 大崎MTビル
TEL：03-6409-6138（受付時間 平日 9:00～16:30）
IRサイトアドレス　|　http://www.sobal.co.jp/

このパンフレット内の文章、写真等の著作物の全部または一部を弊社の許可なく複製、使用することを一切禁じます。パンフレットの内容は2016年5月現在のものです。260516PR176-IRJ08